伊勢友情
発行所・編集
三重県中勢防衛協会
TEL(059)228-9141
印刷　㈱ミフジ印刷

三重県中勢防衛協会では会員を募集しています。
（申込及びお問い合せ先）
〒514-0033
津市丸之内29-14
（津商工会議所内）
TEL(059)228-9141

地域との連携を密に！

南海レスキュー実動訓練

各関係機関と自治会との調整

33普連（連隊長・金子1佐）は、令和7年1月13日（月）から17日（金）までの間、中部方面隊が実施する令和6年度南海レスキューに参加した。

南海レスキュー実動訓練は、南海トラフ地震の発災時における孤立地域での発災直後の初動対処を焦点とした対処行動を実動により演練し、震災対処能力の向上を図り、あわせて、教訓を収集し、関係自治体・各関係機関と共有し今後の災害対策の資とすることを目的とし行われた。

本訓練は、中部方面隊が中方管内全域（東海北陸、関西、中国及び四国）にて実施する訓練であり、三重県においては、三重県庁をはじめとする三重県内の約14ヶ所で行われた。そのうち33連隊は、鳥羽市答志島にて、離島に対する情報収集を任務とする訓練を行った。

離島での訓練は発災後、ヘリ輸送で情報収集組（偵察用オートバイ2両）が答志島小学校へ着陸し、その後、消防団や自治会関係者に聞き取りを行い現地の偵察を行った。その際、オートバイでの進入が困難な場所を確認した情報収集組は、速やかに一般社団法人日本UAS産業復興協議会のドローンと連携し、赤外線カメラを使用し生存者を捜索するとともに、民間企業や自治体との情報共有をし、その後も被害状況の情報収集を継続して行った。

同日、連隊として鳥羽市長、志摩副市長と共に航空偵察を実施し発災における孤立となり得る地域を確認し、防災の意識向上を図った。志摩スポーツ公園では、UH－1のホイスト救助訓練・大型ドローンによる物資輸送が行われ、第10師団長（垂水陸将）が視察した。

16日（木）には、三重県庁にて連隊長、第3科長（佐々木3佐）及び第3科防衛幹部（浮田1尉）と県防災監との意見交換が行われ、発災時の情報共有に係る認識を合わせ、連携を強化した。

連隊は、本訓練で得た教訓事項を活かし各関係機関、自治会、各地域住民の方々との連携を深め、いかなる災害にも対応していく。

師団長（垂水陸将）視察

ヘリ映像を確認

映像伝達をする情報収集組

ヘリ輸送で現地へ到着

ドローンを輸送し答志中学校へ着陸するヘリ

見て！知って！食べて！おいでよ自衛隊

陸上自衛隊ガールズイベント

33連隊は、令和7年2月1日（土）久居駐屯地にて、陸上自衛隊ガールズイベントを実施した。

本行事は、女性限定の参加者に対し日常および緊急時に役立つ自衛隊スキル体験をして、自衛隊への理解の促進および防衛基盤の育成を図ることを目的として行った。

当日は、晴天に恵まれ、午前10時の受付会場では、待ちに待った日に笑顔で受付をする人たちが列をなした。

イベントの内容は、午前・午後に分かれており、午前中は、衛生科隊員による応急手当、格闘展示、売店見学、女性隊員との懇談、お昼には、隊員が普段食べている戦闘糧食（レーション）喫食。午後には、女性隊舎見学、災害派遣活動説明、装備品見学、体験試乗、戦闘服試着など盛りだくさんの内容となっており、参加者は、どれも積極的に笑顔で楽しんでいた。

特に、昼食の戦闘糧食を食べた際には、「思っていたよりおいしい」「ヒートパックを防災用具に入れたいと思う」など様々な意見が飛びかい、終始和やかな雰囲気で戦闘糧食に舌鼓を打った。

午後からの体験試乗では大型トラックに乗車し、駐屯地内を周った。

行事を通じて、自衛隊への理解の促進および防衛基盤の育成を図ることができた。

なりきり自衛隊

戦車の上ではい！ポーズ！

初めてのレーションにわくわく♪

格闘展示

最後は花道でお別れ

生活隊舎見学（コンセプトルーム）

衛生隊員による野外衛生

久居駐屯地ホームページ　インスタグラム　X　YouTube

師団競技会『優勝』に向けて！

師団射撃競技会に向けた各種練成

33普連は、2月中旬に実施される師団射撃競技会（分隊射撃・至近距離射撃）及び2月下旬から3月上旬に実施される師団迫撃砲競技会（81M・120M）の各練成を1月から競技会までの間、それぞれ実施した。

当初連隊は、あいば野演習場にて、師団統制射撃訓練に参加し、じ後、連隊として東富士演習場において小銃分隊戦闘射撃を実施、師団競技会優勝に向けて射撃の能力向上及び団結の強化を目的とした訓練を行った。

今回の訓練では、技術の向上のみでなくオリンピック選手等が実施している要領を参考に連隊で確立したメンタルトレーニングを取り入れ、その要領を検証しつつ定着させた。これにより、12月に実施した連隊射撃競技会において、緊張等のため普段の実力を発揮できなかった隊員も自らのメンタルの特性を踏まえたルーティンを取り入れる等によりいつでも平常心で実力を発揮できるようになった。

2月上旬からは、東富士演習場において120M迫撃砲及び81M迫撃砲の練成射撃を実施し、射撃練度の向上を図った。射撃準備では、確実に点検、方向盤及び眼鏡の規正を実施して射撃に万全を期した。こちらも、メンタルトレーニングを取り入れつつ、砲の癖や地形の特性に応じた匙板の沈下状況の検証を全て実施し、2月中旬に実施する本番前の最後の実射練成への資を得た訓練において、分隊長は、砲音にも負けない大きな声で号令を出し、それに応え、分隊員は迅速・確実な射撃を実施し、『優勝』への歩みを進めた。

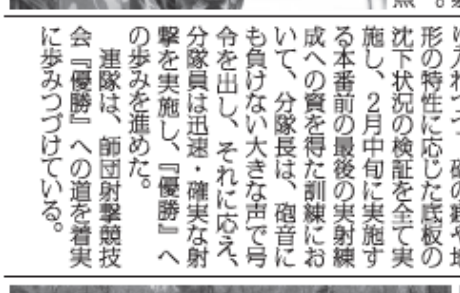
連隊は、師団射撃競技会『優勝』への道を着実に歩みつづけている。

観測手と連携し射撃

積雪が残る中、分隊射撃開始！

鋭い眼光の狙撃手

師団幕僚長に説明する連隊長・金子1佐


訓練を視察する連隊長・金子1佐

寒空に響く砲音（81M迫撃砲）

3…2…1…初弾発射ー！！（120M迫撃砲）

分隊一丸となって狙い撃つ

晴天の中での射撃

2年振りの共同訓練！

令和6年度三重県警察との共同訓練

33普連は、令和7年2月4日（火）に久居駐屯地において、令和6年度三重県警察との共同訓練を実施した。

本共同訓練は、平成22年から行われており、昨年は能登半島地震の影響によって中止となったため今年は2年振りの訓練となった。

本訓練は、副連隊長・清水2佐、三重県警察本部警備第2課長・國枝警視がそれぞれ訓練統裁官となり、訓練参加部隊の本部管理中隊（中隊長・本江3佐）と県警機動隊（機動中隊長・大久保警部）が共同して治安出動時に予想される行動を演練した。この目的は、事態等発生時における対処能力の実効性を向上することにある。

訓練に臨むにあたり、当初警察官から職務質問におけるノウハウや着意すべき事項について情報提供があったことにより、参加する隊員は万全の態勢で訓練に臨むことができた。

訓練開始式において副連隊長は統裁官として「我々は国民の安心・安全を守るために行動しなければならない。それぞれの分野で国民に安心を与え、公共の秩序維持のためにしっかりと成果を残すこと。」（要旨）と訓示した。

じ後、部隊緊急輸送訓練、共同検問訓練等を演練するとともに警察との緊密な連携・共同対処要領を相互に確認し、その実効性を向上することができた。

訓練終了後は検討会を行い、相互に訓練に関する忌憚のない意見や問題点への処置対策についての認識を共有するとともに、じ後の訓練の方向性について確認するなど、大きな成果を得た共同訓練となった。

統裁官訓示

訓練開始式

部隊緊急輸送訓練

座学を実施し認識の統一

車両の隅々まで捜索

職務質問の演練

訓練お疲れさまでした！

状況終了後すぐさまAAR

共同指揮所で指揮をする中隊長

久居駐屯地ホームページ　インスタグラム　X　YouTube

VOICE・VOICE

分隊射撃競技会参加所感文

第1中隊　士長　栗原（くりはら）　昂希（こうき）
三重県度会郡度会町出身

私は分隊射撃競技会に参加して非常に貴重な経験を得られました。

日々の訓練で射撃の練成を行う機会はありますが、今回の競技会での違いは、分隊対抗であり個人戦ではないということです。分隊で射撃をするので一緒に練成をする第三者目線からの意見が聞け、今回、私は数多くのご助言を先輩方から頂き、自分が気が付かず行ってきた問題点を改善し、射撃練度を高めることができました。私が所属している分隊は全体の2位で、惜しくも優勝を逃してしまいましたが良い結果を残すことができて嬉しかったです。

私は射撃等の訓練において、意識して実施していることを無意識化させるということを大切にしています。1つのことを意識して実施できたら無意識にできるまで体に覚えさせ、何も考えずに自然にできたならば、次の意識して実施する事項に移行するというものです。

今回の競技会では緊張状態でも無意識に実施できました。実は、間違っていることも無意識に実施していましたが、先輩からの助言で気付けたのが非常に良かったと思います。

精一杯やったと思う反面、反省すべき事項も多かったので、今後も分隊や中隊に少しでも貢献できるように研究心をもって精進していきたいと思います。

今度は師団の射撃競技会に参加することになり、幸運にも射撃に重きを置いた環境がまたくるので、この機を逃さず多くの経験と知識を得たいと思います。

分隊射撃競技会に参加して

第3中隊　3曹　森山（もりやま）　大地（だいち）
佐賀県佐賀市出身

私は、今回分隊射撃競技会に機関銃手として参加したことで、責任の重さを感じるとともに、射撃技術向上の大切さを実感しました。

普段の射撃訓練では落ち着いてできたことが、競技という場ではプレッシャーを感じて少し難しく感じました。しかし、冷静に射撃を続けていく中で、自分自身の反応速度や精度の向上を実感できました。

また、チームメンバーと協力し、目標を達成できたことで、競技を通じて信頼関係が強化されたと感じました。互いにサポートし合いながら臨んだ競技は、本当にやりがいのあるものでした。

今回の射撃競技会では、緊張とプレッシャーが大きく、一発一発が結果に直結するため非常に高い集中力が必要であり、そのプレッシャーに対する耐性と冷静な判断力を養うことができました。

競技後、自ら振り返りを行い多くの気づきがありました。自分の課題が見えたので、それを次の訓練で克服し、スキル向上を目指しより高いレベルに成長できるよう努めていきます。

機関銃手として射撃競技会に参加することは、射撃技術の向上だけでなく、精神的な強さやチームワーク、戦術的な判断力など多くの面で自分を成長させてくれる良い機会となりました。

師団射撃競技会では、今回以上の熾烈な争いが予想されます。日頃の射撃訓練を通じてより高い練度へと向上し、万全の態勢で挑み師団射撃競技会で優勝します。

継続の結果

第4中隊　3曹　髙嶋（たかしま）　励（れい）
三重県南牟婁郡紀宝町出身

私は第33普通科連隊第4中隊に配置されて今年で15年になり、この間同じ中隊、同じ小隊に在籍してきました。それにより小隊内の隊員の人柄や特性、業務遂行能力を把握できており、かつ、コミュニケーションがしっかりとれているので、小隊訓練、検閲、射撃等の場面においてお互いに修正すべき箇所の指摘や、意思疎通が非常に行いやすく、練度向上するための環境が整っていると実感しています。

今回私は12月に行われた連隊迫撃砲競技会に観測手として参加し、優勝という結果を得ることができました。事前の練成期間では業務が重なり、小隊の隊員が揃って訓練することが十分にできない状況でした。しかしながらこれまでの経験の積み重ねに加え、小隊の認識統一ができていたことにより、状況判断に迷いがなく、自信と結果につながったと感じています。

このように日々の継続が結果につながった経験があるので、普段の生活においても自分自身で目標を立てるようになり、筋力トレーニングや係業務の知識なども毎日の行動の中で意識して向上させる等、取り組み方が変わりました。少しずつでも成長を重ねていくと、やがて大きな成長になることを自覚することができたので、これからも今回の経験を忘れずまた、日々の継続を怠ることがないよう次の目標である師団迫撃砲競技会の優勝を目指して頑張ります。

連隊迫撃砲競技会を終えて

第4中隊　士長　澤田（さわだ）　輝（ひかる）
愛知県豊橋市出身

今回私は、連隊81㎜迫撃砲射撃競技会に副砲手として参加し、貴重な経験を得ることができました。この競技会は射撃練度の向上だけでなく、部隊の相互協力や連携を強化する貴重な機会であり、それぞれの職務における責任感を再認識する場でもありました。

事前の練成期間において、私は他の隊員と比べて経験及び練度が不足していることを痛感しました。半装填などの各動作を迅速に実施することができず、苦戦をしていました。それを解消するため、様々な機会を捉えて先輩や同期にアドバイスをいただきながら練成を行い、自身の練度向上のため努力を継続しました。

また、練成をしていく上でチームワークの重要性を強く感じました。迫撃砲射撃を行う際に、それぞれの役職が協力し連携をすることによって無駄な時間を省き、必要最小限の動作で実施するため、チームワークの確立はとても重要であると改めて認識することができました。

最後に、今回の迫撃砲競技会を通して練度向上やチームワークの重要性を再認識するとともに、今後の訓練に対する取り組み方の意識をより一層高めることができました。個人のスキルだけでなく部隊全体として協力と連携を更に強化することで迫撃砲射撃能力が向上できると実感できたので、次の目標である師団迫撃砲競技会の優勝に向けて精進していきます。

大人になるための第一歩

令和7年駐屯地二十歳の集い

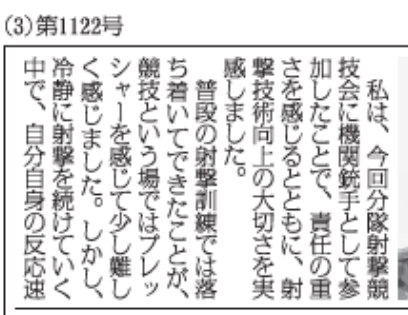
久居駐屯地（司令・金子1佐）は、令和7年1月17日（金）に久居駐屯地体育館において令和7年駐屯地二十歳の集いを実施した。

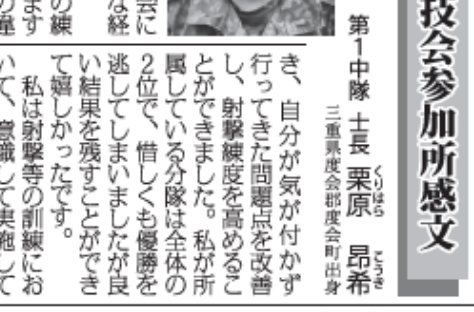
行事は、今年度に二十歳を迎える隊員（以下、参加者）の門出を祝うとともに、二十歳を迎えた者としての自覚と責任感の醸成を図ることを目的とし、津市長・前葉泰幸氏をはじめとする16名の来賓の方々、駐屯地各部隊長及び駐屯地の隊員が見守る中、参加者15名の門出を祝った。

行事では、国歌斉唱後、二十歳を迎える隊員紹介において一人ひとりが壇上に上がり、所属、階級、氏名、出身地及び抱負を力強く述べ、その後執行者（駐屯地司令）は式辞において、「自衛官としての目標や将来像を改めて確立してもらいたい。そしてそれを達成するためにあらゆる困難から逃げずに正面から向き合い創意工夫をもって挑戦してもらいたい」（要旨）と述べた。

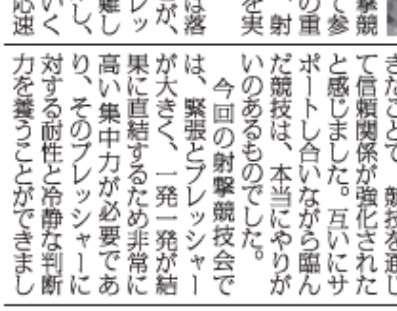
その後、参加者を代表し重迫撃砲中隊の石井（いしい）優杜（まさと）士長は「二十歳を迎えた今、社会からは大人としての自覚、義務や責任を果たすことが求められます。まずは自らの未熟さを自覚し、社会への貢献を継続的に追求します。」と力強い抱負を述べた。

行事終了後には、記念撮影、記念会食及び桜の記念植樹が行われ、15名の参加者は二十歳という節目を迎えて新たに大人になるための第一歩を踏み出した。


石井士長による二十歳の抱負

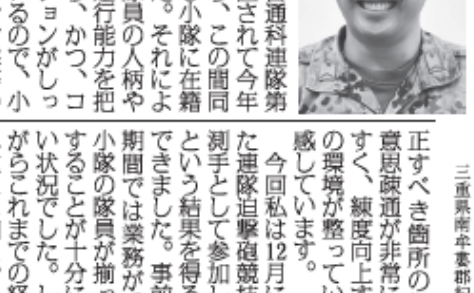


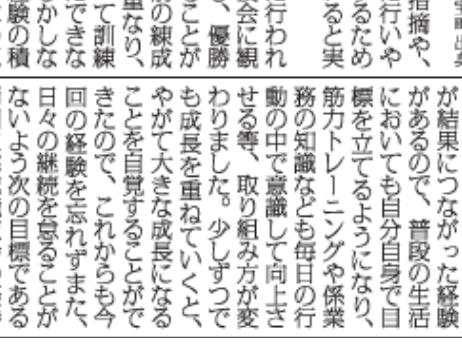
記念写真


この木とともに成長を誓う

新隊員35㎞行進訓練フォトギャラリー

駐屯地出発！


行進後、索敵を実施


全員完歩！

異動者紹介

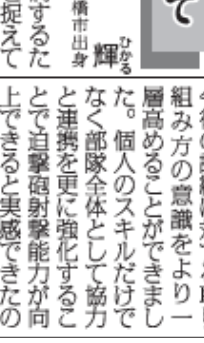
▼異動者紹介
【駐屯地外（異動先）】
▽車中
2曹　坂本啓祐（湯布院）

優秀隊員

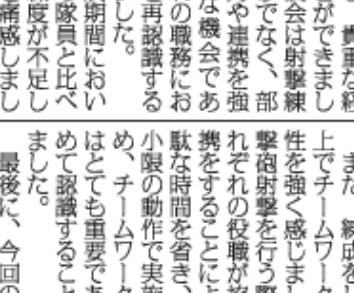
▼連隊臨時表彰式
▽第4級賞詞（車両無事故による功績）
本中　2曹　伊藤　夏輝
▼1月喫食率優秀部隊
第1位
第3中隊
第2位
重迫撃砲中隊
第3位
第4中隊
▼服務意識向上施策に伴う服務優秀隊員
本中　士長　笠井愛輝奈
1中　3曹　熊谷　侑也
2中　士長　井坂　英寿
3中　士長　上野　蒼真
4中　士長　澤田　輝
重中　士長　石井　優杜

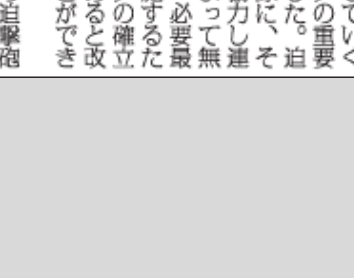
定年退官者紹介

▽中西　友由　曹長（前　本部管理中隊）
2月11日付
定年後
三十三ビジネスサービス



▽江口　道矢　准尉（前　業務隊）
2月13日付
定年後
津市ボートレース事業部


熱い握手を交わす中西曹長


「今までありがとう！」

長い間の勤務、お疲れ様でした。これからも健康に気を付けて頑張ってください。

久居駐屯地ホームページ　インスタグラム　X　YouTube